



市会 関 勝則  
議員 せき かつ のり

「地域のチカラ」を、  
提案・実践。

◎委員会報告◎

<http://関勝則.com>

## 横浜市教育委員会

# 「いじめ」再発防止策を公表

東日本大震災の被災地から横浜の小学校に転入してきた児童に対するいじめの問題については、昨年12月に私が所属する市会こども青少年・教育委員会に報告があつて(本年1月号にて既報)以来、議論を続けてまいりました。4月10日には、いじめ再発防止策が公表されたのを受けて当該委員会が開催され、その内容を確認するとともに質疑を行いました。

防止策をまとめることが最終目標ではありません。被害児童に対しては今後も横浜市として寄り添っていくこと、そして今回のことを教訓とし、全教職員が常にいじめに備え立ち向かっていくという覚悟をしっかりと持つことが重要です。

### 「いじめ重大事態に関する再発検討委員会 報告書」より(抜粋)

【はじめに】より：今回の件では、学校、教育委員会が転入してきた児童と保護者の気持ちに寄り添い、その思いを十分に受け止めることができなかつたことを心より反省しています。こうした事態を二度と起こさないよう、厳しい姿勢で「なぜ学校や教育委員会が十分な対応を行うことができなかつたのか」を検証することで問題点を明らかにし、「どうすれば適切な対応を行うことができるのか」という観点から、再発防止策を策定いたしました。

今後、同じ過ちを繰り返さないために、法の趣旨の正しい理解を進めるとともに、教育の原点に立ち返り、市立学校全体の学校組織力や教師の指導力の向上に取り組んでいきます。そして、学校、教育委員会は「いじめを絶対に許さない」意識を保護者や地域、関係機関と共有し、相互の連携・協力を図ることで、児童生徒一人ひとりが安心して、いきいきと学校生活を送れるよう、いじめの根絶に取り組めます。

### 再発防止策のポイント

- ◎教職員一人ひとりが、つらい思いをしている児童生徒の気持ちに寄り添い、その思いをしっかりと受け止める力の向上を図っていきます。
- ◎被災避難者や復興にかかわる人々の思いや取組を理解する学習を進め、被災を経験した児童生徒に寄り添う心情を醸成していきます。
- ◎いじめを見逃すことなく、組織として情報を共有し、確実に判断・対応できるよう、専門スタッフの配置など、チームで対応できる体制を整備し、仕組みを構築していきます。
- ◎いじめの中には学校や教育委員会だけでは解決できない問題が背景となっている場合もあります。区役所や警察、児童相談所、療育センター等、関係機関と連携し、それぞれの権限や制度等を活用して、その解決や対応に取り組んでいきます。
- ◎学校と保護者は児童生徒の成長を支えるパートナーであるという基本認識に立ち、いじめの未然防止に向けた取組を、広く保護者や地域に発信します。
- ◎いじめ防止対策推進法では、いじめられた児童生徒が「心身の苦痛を感じているもの」をいじめと定義しています。いじめの対応や未然防止を図るにあたり、教職員や教育委員会事務局の職員をはじめ、保護者や地域も含め、このことを正しく理解できるよう、効果的な研修等に取り組んでいきます。
- ◎本報告書でまとめた再発防止策をもとに、学校、教育委員会は、いじめに対応する組織体制・対応の流れ